

「市長への手紙」のご紹介

毎年、9月の市民提案月間に伴って募集する「市長への手紙」。今年「第5次勝山市総合計画について」をテーマとして募集したところ、建設的なご提案やご意見を5件いただきました。

その中から、手紙の内容とその返事の要約をご紹介します。

※秘書・広報課では、日頃から皆さまからのご提案、ご意見を受け付けています
◎ 秘書・広報課 (088-11114)



勝山市における体育施設のあり方検討委員会から「競技スポーツだけでなく、生涯スポーツやコミュニティスポーツなどの推進、健康増進やメディカル的な施設の整備など、市民が集まる体育施設の整備を望む。」との中間報告がありました。

「新体育館の建設は本当に必要か」 学校再編で生まれる 空き施設の活用を

新体育館の建設については、多くの市民の長年にわたる夢であり、また平成30年国民体育大会バドミントン競技会の開催に向けて、市民の皆さまのご理解をいただく中で、第5次勝山市総合計画の中に位置づけていきたいと考えています。

新体育館の機能や規模については、

また、市に提出された約6000人の市民の署名による「総合体育館建設を求める要請書」では、「新体育館ができれば、国体のような全国大会だけでなく、大きなコンサートや各種イベントなども開催でき、勝山市の交流人口の増加や経済効果の増大が見込まれる。」との期待が寄せられています。

そして、勝山市において全国レベルの大会が数多く開催されるようになり、トップアスリートの競技を目的にたりにできるようになることは、子どもたちをはじめ、多くの市民への刺激となり、正に夢や元気を生み出す原動力になるものと考えています。

もちろん、こうした大きなプロジェクトは、市の財政の現状および今後の見通しを見極めた上で進めるべきものであり、そのことは十分検討していきます。

「里山(長尾山)と川の整備」 自然環境の保全をめぐり、 日本本来の里山に

長尾山総合公園は、年間40万人以上の来館者を誇る県立恐竜博物館、勝山特有の緑豊かな美しい自然を有する県内屈指の公園であります。また、今年博物館開館および開園10周年を迎えることができました。

これまで市民の皆さまをはじめ、県内外からの来園者が安全で安心して自然に親しんでいただけよう公園の維持管理などを行ってきましたが、広大な敷地内に豊かな自然を有しているが故にクマ、イノシシなども出没しています。これまでも電気柵の設置、下草刈りを実施するなど対策を講じています。

今後も引き続き、公園内の豊かな自然環境を保全するとともに、獣の住みにくい里山を創出するための緩衝帯の整備の検討、および維持管理に努めていきますので、ご理解とご協力をお願いします。

「暮らしのガイドブック」 作成に向けて

株式会社サイネックスと 共同発行協定を調印



11月26日(金)、勝山市は株式会社サイネックスと、市役所での手続きや補助金制度などの行政情報を掲載した「暮らしのガイドブック」を共同発行する協定を締結しました。

「暮らしのガイドブック」は、平成15年から毎年、市が独自で作成してきましたが、今後はこれまでの行政情報に加え、医療機関などの地域の情報や、事業者の広告を掲載し、これまでに以上に実用性の高いガイドブックを作成し、配布することとなります。なお、印刷から発行にかかる経費は、掲載される広告料で賄われるため、市の負担はありません。

「暮らしのガイドブック2011年版」の配布時期は、平成23年6月の予定です。

◎ 秘書・広報課 (088-11114)

市長となんでも語ろう会

小中学校再編、新体育館建設について 市の再検討案を掲示

11月10日(水)、14日(日)、20日(土)の3日間にわたり、市内3中学校区別に「市長となんでも語ろう会」を開催しました。

今回は、これまで提示してきた小中学校再編、新体育館建設などに関する市の素案に対する市民の皆さまからのご意見・ご提案を踏まえて、再度検討した結果および現時点での市の基本方針を説明しました。

参加された保護者や地域住民のかたからは、再提案の内容を踏まえた上での今後の再編方法や通学手段の確保、新体育館の建設費などについて、ご意見などをいただきました。

今後も、市民の皆さまとの議論を踏まえ、次代を担う子どもたちにとってより良い教育環境の実現を目指していきます。また、新体育館の建設については、誰もがいつでも気軽に参加でき、より高度な技能の向上が図れるスポーツ環境の整備・充実を目指し、市民の皆さまと一体となって進めていきます。

※「市民となんでも語ろう会」の議事要旨については、後日ホームページで公開します

小中学校再編、新体育館建設に関する現時点での市の基本方針

- 1 学校再編と新体育館建設について、それぞれ別途に進めます
- 2 中学校については、素案に示した1校に再編する案にこだわらず、段階的に再編を進める2校案も検討し、現時点では目標年次を定めず、できるだけ早い時期の再編を目指します
- 3 小学校については、それぞれの地域の意思を十分尊重することを基本としながら、今後の再編のあり方について議論を重ねていきます
- 4 新体育館については、利便性の高い市街地において、平成30年の国体開催が可能となる時期までに建設を進めることとします



説明する山岸市長



市長となんでも語ろう会の様子